

6 群書類従第四 卷第六五

7 実方が日頃の確執から、理由もなく行成の冠を落し、庭に投げ棄てた時に、行成は少しも騒がなかった。実方はしらけて逃げたのを主上が御覧になり、行成の態度をほめ、藏人頭に抜擢された。実方は中将を召上げられ、歌枕見て参れと、陸奥守として任地に遣わされ、そこで亡くなった。実方は藏人頭になれずに終ったことを恨み雀になつて殿上の小台盤に居たという話が、これらの諸書に記されている。

8 「拾遺抄」群書類従第卷一四六

9・10 群書類従第八卷第一八一 和歌部三六 歌合二

11 「山槐記」久寿二年五月三十日条、「台記別記」久安四年七月条群書類従第一八卷第五二五

12 同じ実方朝臣集中の、「おほつかな我ことつけし郭公はやみの里をいかになくらん」という同類の語彙をもつ一首は、豊後の速見郡が名所の地名である。これは鎌倉末の夫木和歌集に採用されている。(岩波・契沖全集十二卷・類字名所外集)

13 日本彫刻史基礎資料集成 平安時代造像記篇 五

14 宮内庁書陵部蔵「南陵多宝塔修理工事略誌」

——本稿は昭和四十八年度科学研究費(総合A)「院政前期より後期への様式展開に関する研究」の一部である。——

美術研究所報

「日本美術年鑑」の刊行

美術部第二研究室の編集による「日本美術年鑑」昭和四十八年版(昭和四十七年一月から十二月の間の記事)は昭和四十九年三月二十五日刊行された。

研究会

昭和四十九年

五月 八 日	高田寺薬師如来像の墨書について	猪川 和子
五月二十二日	西明寺三重塔柱絵について	関口 正之
六月十二日	欧米所在の日本彫刻	久野 健
七月 三 日	古建築の保存について	関野 克
七月十七日	昭和四十八年度における二作品の保存修復処置について	西川杏太郎

七月十七日 矢代氏蔵法華経見返し絵について

青木 繁夫  
樋口 清治  
増田 勝彦  
江上 綏